

日本流通学会 公開シンポジウム

日本アパレル産業の現状と課題

——グローバル時代の産地・ローカル企業の可能性——

H&M、ZARA など海外 SPA がハイファッションと低価格を武器に世界のアパレル市場を席卷しています。一方、日本ではユニクロのような例外を除いてほとんどのアパレル企業が国内企業・ローカル企業のままです。本シンポジウムでは、グローバル競争時代における日本の繊維・アパレル産業の過去・現在・将来について、産地やブランド企業の観点から展望します。

●パネリスト

木下明浩 「「ブランド」からみた日本のアパレル産業」

(立命館大学教授, 主著『アパレル産業のマーケティング史』)

大田康博 「国・地域・業種を越えるテキスタイル企業」

(徳山大学教授, 主著『繊維産業の盛衰と産地中小企業』)

小谷健一郎 「「地方」から見た日本のアパレル産業」

(名古屋市立大学研究員, 主著「地方型アパレル産業の形成と発展」)

●モデレーター

田中 彰 (京都大学准教授)

●日時：2014年7月5日(土) 午後2時～5時

●場所：名城大学名駅サテライト (MSAT)

名古屋市中村区名駅 3-26-8 KDX 名古屋駅前ビル 13 階 多目的室
JR 名古屋駅からユニモール地下街 4 番出口を出てすぐ

～ ! 参加費無料・予約不要! 一般の方のご来場を歓迎いたします ～

●主催：日本流通学会 中部部会 / 関西・中四国部会 <http://www.jsdis.org/>

●問合せ先：日本流通学会中部部会事務局(担当 田中) [✉a.tanaka@econ.kyoto-u.ac.jp](mailto:a.tanaka@econ.kyoto-u.ac.jp)